

国語 第1学年 すきなところを見つけよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の第1学年下巻（令和6年度版）に載っている物語。光村図書の年間指導計画例では、11月から12月に単元「すきなところを見つけよう」として扱っている。他の会社の教科書を使う学級では目次で確かめる。場面の分け方は使う教科書の本文と学級で決める。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、「たぬきの糸車」の中からすきなところを選び、そこでたぬきやおかみさんが何をしたか、どんな様子だったかを挙げて、すきなわけを話したり書いたりできる。そのわけに「わたしも……したことがある」と自分の体験を結び付けて書き、すきなところを様子が伝わるように音読して友達に紹介できる。友達が同じところを選んでもわけが違うことに気づき、聞き合う楽しさを知る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)オ	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
〔第1学年及び第2学年〕 の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕 の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)エ	エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)カ	カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する（(1)オ・ク）。場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ（C(1)エ・オ）。すきなところとそのわけを友達と伝え合い、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ) ②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って、すきなところとそのわけを友達に伝えようとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書の年間指導計画例（令和6年度版）が、この単元に8時間（読むこと8）を配当している。次ごとの内訳はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名と挿絵から話を想像し、先生の範読を聞く。 ○すきなところを一つ言い、単元の課題「すきなところを見つけて、そのわけを友達に伝えよう」をつかむ。	態①（観察・発言）
第2次	2	○場面1・2（たぬきがいたずらに来る、糸車を回すまねをする）を読み、たぬきとおかみさんのしたことを確かめる。 ○たぬきのまねを動作化し、様子を表す言葉を見付けて言葉カードに書く。	知①（言葉カード・発言）
	3	○場面3（わなにかかったたぬきを、おかみさんが逃がしてやる）を読み、おかみさんのしたことから様子を想像する。	思①（ノート・発言）
	4	○場面4（冬を村で過ごした夫婦が、春に山へもどる）を読み、おかみさんが見たものと、その時の様子を想像する。	
	5	○場面5（糸をつむぐたぬきを、おかみさんがのぞく）を読み、たぬきの行動と様子を想像する。 ○様子が伝わるように音読する。	思①（ノート） 知②（音読の観察）
第3次	6 （本時）	○お話の中からすきなところを一つ選び、そのわけを、登場人物の行動や様子と自分の体験とを結び付けてカードに書く。	思②（カード）
	7	○すきなところを音読し、わけを伝える練習をする。 ○ペアで聞き合い、わけをカードに書き足す。	知②（音読の観察）
	8	○すきなところとわけを紹介し合い、同じところを選んだ友達のわけと比べる。 ○学習を振り返る。動物が出てくるお話を読む並行読書を紹介する。	思③（発言・観察） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：お話の中からすきなところを選び、そのわけを、たぬきやおかみさんの行動や様子と自分の体験とを結び付けて書ける。(C(1)オ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの場面ごとのカード (たぬきとおかみさんのしたこと) を見て、お話の順序を振り返る。 2 本時のめあてをつかむ。 ○「このお話で、いちばんすきなところはどこですか」 【めあて】すきなところをえらんで、そのわけをかこう。 〈予想される児童の反応〉 ・たぬきが糸車を回すまねをするところ。 ・おかみさんがたぬきを逃がしてやるところ。 ・たぬきが糸をつむいでいるところ。 ・たぬきがおどりながら帰っていくところ。	・場面ごとのカードと挿絵を、お話の順に黒板に貼る。 ・めあては、第1学年で習った漢字だけを使い、分ち書きで板書する。
展開 (分)	3 全文を音読する。 4 いちばんすきなところに付箋を貼る。 5 選んだところで、たぬきやおかみさんが何をしたか、どんな様子だったかを確かめる。 ○「そこで、たぬきやおかみさんは何をしていましたか。どんな様子でしたか」 6 自分の体験と結び付ける。 ○「同じようなことをしたことや、見たことはありますか」 7 ペアで、すきなところとわけを話す。 8 カードに書く。 (型)「わたしがすきなところは、……ところです。わけは、……からです。わたしも、……ことがあります」 〈予想される児童の反応〉 ・糸車を回すまねをするところ。たぬきが、おかみさんのまねを一生けんめいしているから。 ・わたしも、お母さんのまねをして料理をしたことがある。 ・たぬきを逃がしてやるところ。おかみさんがやさしいから。 ・ぼくも、つかまえた虫を外に逃がしたことがある。 ・糸をつむいでいるところ。たぬきが、おかみさんにお返しをしているみたいだから。 ・ぼくも、手伝ってくれた友達にお返しをしたことがある。	・わけを言う前に、選んだところの行動と様子を、教科書の文に指を置いて確かめさせる。 ・「おもしろいから」「かわいいから」で止まる子には、「たぬきは何をしていたかな」「どんな様子だったかな」と聞き、行動と様子を言わせてから書かせる。 ・体験が思い出せない子には、家や学校や生活科の時間のことを先生が例に出して聞く。見たり聞いたりしたことや、ほかのお話で読んだことでもよいと伝える。 ・書くのが苦手な子には、型の書き出しを書いたカードを渡し、話した言葉を先生が聞き取って一緒に書く。 ・早く書けた子には、二つ目にすきなところを選ばせるか、選んだところの様子を伝えるように音読する練習をさせる。 ・教科書の文を書き写す所は、先生が教科書から書き入れた見本を見せる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	9 二、三人がカードを読み、同じところを選んだ友達のわけと比べる。 ○「同じところを選んだ人のわけは、自分のわけと同じですか。ちがいますか」 【まとめ】すきなところのわけは、たぬきやおかみさんのしたことと、じぶんのことをつなげてかくと、よくつたわる。 10 振り返りをする。 〈予想される児童の反応〉 ・同じところでも、わけがちがっておもしろい。 ・つぎは、音読してしょうかいしたい。	・同じところを選んだのにわけが違う例を取り上げ、違ってよいことを伝える。 ・振り返りは「すきなところと、そのわけ」と「友達のわけを聞いて思ったこと」の二つを話させ、書ける子には書かせる。 ・次時は、すきなところを音読して紹介する練習をすることを伝える。 ◎思② 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(カード)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付と題名、めあて（分かち書き）。その左に、場面1～5のカードと挿絵を、お話の順に右から左へ並べて貼る。挿絵の下に、子どもが選んだところの名札を貼る。中ほどに中心の問い「そこで、たぬきやおかみさんはなにをしたかな。どんなようすかな」と、子どもが言った行動と様子の言葉。その左にカードの型（わたしがすきなところは……。わけは……から。わたしも……）。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、わけが「おもしろいから」「かわいいから」の一言で終わる。手当ては、わけを言う前に、選んだところで登場人物が何をしたかを教科書の文に指を置いて確かめる順を、単元の最初から続けること（C(1)エ）。二つ目、自分の体験と結び付けられない、またはお話と関係のない体験を書く。手当ては、「にたことをしたか」「見たことがあるか」と、登場人物の行動を手がかりにして聞き、話してから書かせること（C(1)オ）。三つ目、たぬきとおかみさんのどちらがしたことかが混ざる。手当ては、場面ごとのカードを、たぬきの欄とおかみさんの欄に分けて書くこと（C(1)イ）。四つ目、糸車や糸をつむぐことを知らず、場面の様子が思い浮かばない。手当ては、糸車を回す様子の写真や映像を見せ、回す動作をまねさせること。分からない言葉は、先生が説明したり絵で確かめたりする（(1)オ）。

プリントの案

場面ごとのカード（第2次で使う）

一枚に一つの場面。上に場面の番号と挿絵を貼る枠、下を「たぬきのしたこと」「おかみさんのしたこと」の二つの欄に分ける。その下に「どんな様子かな」の欄。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。C(1)イ・エに合わせた。

言葉カード（様子を表す言葉）

一枚に、見付けた言葉、どの場面にあったか、その言葉を使って言ってみた一文。動きを表す言葉と音を表す言葉のどちらかに印を付ける。〔知識及び技能〕(1)オに合わせた。

すきなところカード（本時）

上に、すきなところの場面の番号と挿絵の枠。中ほどに「わたしがすきなところは、……ところです」「わけは、……からです」「わたしも、……ことがあります」の三つの書き出しと、ます目。書き出しを書かない白いカードも用意し、子どもが選べるようにする。C(1)オに合わせた。

音読しょうかいの練習カード

すきなところを音読する練習の回数を書く枠と、「声の大きさ」「言葉のまとまり」「様子が伝わるか」の三つを、自分とペアの友達が丸で確かめる欄。〔知識及び技能〕(1)クに合わせた。

振り返りカード

「すきなところと、そのわけ」と「友達のわけを聞いて思ったこと」の二つの欄。書くのが難しい子は、顔の絵に丸を付けて先生に話す形でもよい。C(1)カと態度の評価に使う。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、領域ごとの書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書 年間指導計画例 1年（令和6年度版）。単元「すきなところを見つけよう」の時期（11月～12月）と配当8時間（読むこと8）の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（令和6年度版）（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

